

認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク 平成 25 年度事業報告

平成 25 年 4 月 1 日から
平成 26 年 6 月 30 日まで

1 事業の成果

○日本 IDDM ネットワークの 3 つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成 22 年度に“救う”“つなぐ”“解決”の 3 つの約束を掲げました。

そして、平成 23 年度に開催した日本 IDDM ネットワーク法人化 10 周年・1 型糖尿病研究基金設立 5 周年記念シンポジウム開催を機に、最終ゴールは、2025 年に 1 型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にする事としました。

その約束を果たすための平成 25 年度の主な取り組みは以下のとおりです。
なお、本年度は会計年度を変更したため 15 か月の事業報告となります。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

地域患者・家族会への助成金の交付、20 歳以上の患者支援策実現、特別児童扶養手当の適正な認定事務の徹底、介護職員によるインスリン注射の実現、海外で使用可能な先進的医療デバイス類の早期承認と患者負担の軽減、及び自動車運転免許等に対する政策提言、患者の祖父母や学校・幼稚園等での説明用パンフレット、血糖測定器等を入れる「キティちゃんポーチ」、ジュースコース及び 1 型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル Part 1～5 の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページでの情報発信、会報の発行などに取り組みました。

特に政策提言では、20 歳以上の患者支援策実現に向けてロビー活動を展開しましたが、実現には至っていません。平成 27 年 1 月 1 日施行の難病法（難病の患者に対する医療等に関する法律）に基づく約 300 と言われる対象疾病に 1 型糖尿病が指定されることについては、平成 27 年 1 月予定の先行疾患としては困難ですが、同年夏の新規疾患（第 2 次実施）指定による医療費助成を目指して次年度も優先課題として取り組みます。

新たな取り組みとしては、社会福祉法人丸紅基金様の助成による「希望のバッグ」プロジェクトを開始しました。このバッグには、特に発症したばかりの時期に患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、学校・幼稚園等での説明用パンフ、患者・家族の体験談等）を詰め込みます。平成 26 年秋からの「希望のバッグ」配布を目指しています。なお、このプロジェクトは 1 型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、継続的な支援を得られるスポンサー獲得に向けて取り組みました。

1 型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル Part 1 から 5（別冊を含めて 6 種類）は、10 月からオンライン通販 [Amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp) 等でも購入できるようにし、さらに Part 2 改訂版「生活編」を作成した結果、過去最高の配布実績（約 4000 冊）となりました。

なお、ホームページは依然として改善の余地がありますが、情報は充実しているという評価もいただき、アクセス件数は2年連続で前年度比2倍（訪問者数約49万人）へと大幅に増加しました。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

インスリンポンプとカーボカウントのセミナーは、引き続き好評で特に都会での開催は定員オーバーで参加をお断りする状態が続きました。出席者の約5割が医療関係者でもあることから、確実に医療・療養環境の充実につながっていると認識しています。

また、村上龍氏（作家・映画監督）が編集長を務めるメールマガジンJMM（約10万人に配信）ほか、全国各地の新聞やテレビ等で私たちの活動が数多く取り上げられ、1型糖尿病の認知度向上につながったものと考えます。

さらに、当法人が本格的に1型糖尿病の社会啓発に取り組むための手段の一つとして、放送作家や英会話講師等によるプロボノ（職業上のスキルをいかしたボランティア）で絵本（1巻「はなちゃんとチクリとびょうきのおはなし」、2巻「パパとママとはなちゃんのおはなし」、3巻「1型糖尿病を2025年までに治します！」）を日本語と英語併記で作成しました。こちらも10月からオンライン通販 [Amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp) 等でも購入できるようにしました。次年度はこの絵本を全国の小児科、図書館等に贈るプロジェクトに本格的に取り組みます。その資金集めのためにREADYFOR?（レディーフォー）「絵本を贈って、不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助きたい！」にチャレンジしました。

社会啓発の第2弾として、「僕はまだがんばれる－“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦－」を作成しました。じゃこめてい出版から平成26年夏に発売予定です。プロ野球阪神タイガースの岩田稔投手との対談も掲載され、患者・家族以外の方々にも購入いただくことで病気の理解が進むと考えています。

そして、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の経験を風化させることなく、その教訓を伝えるためにも「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル Part 3－災害対応編－別冊 1型糖尿病 [IDDM] 関係者の東日本大震災」を発行し、被災地の患者、医師、看護師、医薬品卸売会社の方々をお招きしてセミナーも開催しました。東海地震、東南海地震等大規模な災害に備えるためにも患者・家族等関係者にとっての啓発に大いに繋がったものと思います。

○ “解決”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による第5回の研究費助成（3件300万円）を行い、続いて第6回の公募も行い過去最高の3件500万円の助成を決定しました。特に第6回の公募に当たっては、従来の「根治」に加えて「治療」「予防」という研究テーマを加えて1型糖尿病の“根絶”を目指すことにしました。助成期間は最長3年間、助成限度額は300万円までアップしました。これで3年連続の研究費助成となりました。累計では、助成件数13件、助成金額1500万円となりました。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えたシンポジウムは、今回の東京開催でも大盛会でした。参加者からは「楽しかった」という声も寄せられました。1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者の方々と患者・家族とがその想いを語り合うことで、「治る」病気になることへの期待感が高まっています。

1型糖尿病の根治のためには、2025年までに100億円の研究費助成が必要と想定しています。

このため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人として、その利点をいかすために様々なメニューを用意して寄付のお願いをしました。

当法人主催のイベントをはじめ、阪神タイガースの岩田稔投手の1勝10万円寄付、個人からの100万円を筆頭とする多くの方々からの寄付、ノーモア注射希望の本プロジェクト（家庭や職場で不要になった本を提供していただき寄付へ）、書き損じはがきプロジェクト（家庭や職場にある書き損じ、未使用のはがきを提供していただき寄付へ）、Just Giving Japan（オンライン上のチャリティプログラム：大村詠一専務理事等が挑戦）での“ノーモア注射2025”プロジェクト、寄付つき商品等多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究金には8,198,083円（前年度比1.4倍）という過去最高の寄付がよせられ、今後の継続的な研究費助成の目途が立ちました。

こうした寄付メニューの中でもノーモア注射マンスリーサポーター（1口1,000円を毎月口座から自動引き落とし：参加しやすいように2,000円を1,000円に引き下げました）の強化に取り組み、186口78名（前年度比57名増）となりました。「希望の自動販売機プロジェクト」は、企業、医療機関、公共施設、ショッピングセンター等にご協力いただき、累計設置台数が43台（前年度比16台増）となりました。この自動販売機は、売上の一部が寄付になるだけでなく、1型糖尿病のことを掲示しており、病気の啓発にも寄与しています。

また、新たに以下の取組を行いました。

11月27日から12月27日まで開催された、オンライン寄付サイト Give One（ギブワン）での「第2回 E-ファンドレイジング・チャレンジ」（E-チャレンジ）に挑戦し、148名の方から1,078,000円のご支援をいただき参加19団体中1位となりました。初の他社サイトによる資金調達への挑戦でしたが特に終盤の盛り上がりで共感と支援者層の拡大を得ることができました。

12月からは冠基金（特定の研究目的のための寄付を頂戴し、その目的にそった研究を行う研究者・研究機関へ研究費支援を行うもの）の募集も開始し、第1号は平成26年5月に遺贈による100万円のご寄付を頂戴し「再生医療基金」を創設しました。

1月からは gooddo（グッドゥ）（毎週「応援する！」ボタンやサポーター企業への「いいね！」のクリックで得られたポイントに応じて支援金が届けられます。さらに、上位10団体までは、支援金額が2倍になります。）の対象になり、開始以来毎週10位以内をキープしており、研究費助成の財源はもとより、約10万人の方々から日本IDDMネットワークのページを訪れ、1型糖尿病の啓発にも大きく寄与したものと思います。

5月末からはソフトバンクモバイル株式会社の「かざして募金」（アプリケ

ーションをインストールしたスマートフォンを、当法人のロゴマーク、ポスター、チラシなどにかざすだけで寄付ができるサービス)の対象になりました。こちらは当方のPR不足によりほとんど実績をあげることができませんでしたので、次年度から本格的にPRいたします。

同じく5月末から、佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク)のご協力により、「日本IDDMMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税(寄付)のお願いを開始しました。このふるさと納税分は全額研究費助成に充てることになっています。6月末時点で、3,374,500円もの寄付の申し込みを頂戴しました。この寄付は佐賀県議会の議決を経て、平成27年4月以降に当法人へ引き渡される見込みです。なお、このふるさと納税を申し込まれている方々の9割が患者・家族以外と思われる、1型糖尿病の啓発にも大きく寄与したものと考えます。

一方で、初開催のチャリティウォークは人手不足、準備不足で十分な成果を得ることができませんでした。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する100人委員会』の委員が110名となりました。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、株式会社大塚製薬工場研究開発センター特別顧問の松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいております。今年度は新たにTHE BOOMの山川浩正氏、漫画家の山田圭子氏など、14名の方々に加わっていただきました。委員の中にはご自身の名刺に100人委員であることを記載されており、1型糖尿病の啓発にも繋がっています。

加えて、『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する希望の100社委員会』を立ち上げ、平成26年6月末現在で様々な業種の18社・団体に加盟いただき、「治る」活動支援等の参加表明をいただいております。

こうした様々な事業の結果、広報事業費が増加しましたが、根治に向けての期待とその研究がより現実的なものとして認識されつつあり、2025年には1型糖尿病が“治る”病気になるよう取り組みを強化して行きます。

管理運営面では、上記のように業務が拡大しており、役職員が相当無理をしています。役職員2名が体調不良等により退任、休職となりました。そこで平成26年4月からは佐賀市の事務局に初の常勤職員1名を採用しました。しかしながらこの程度では十分な組織運営体制と言える状況にはありません。一方で、今年度も68名のボランティアの方々に助けられました。

以上のように、日本IDDMMネットワークは、過去最高の決算額となり、ミッション達成に向けて、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪が広がりつつあります。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会の活性化のために下記の団体に助成金を2万円交付した。 ・特定非営利活動法人補食の会 ・福井県小児糖尿病家族会	12月8日 12月15日	佐賀市	1人	患者及びその家族等 57人 85人	40
	○患者・家族会設立助成金に対する交付申請はなかった。	通年	佐賀市	1人	—	
	○地域患者・家族会の下記の事業に対し、後援を行った。 ・岡山小児糖尿病協会（岡山つぼみの会）主催の「1型糖尿病患児の療養及び学校との連携についての研修会」	平成25年 6月22日	岡山市	1人	70人	
	・つぼみの会愛知・岐阜主催の「1型糖尿病患児の療養および学校との連携についての教職員向け研修会」	7月31日	名古屋市	1人	290人	
	・つぼみの会三重主催の「1型糖尿病 先生方と患者・家族との研修会」	8月20日	津市	1人	90人	
情報収集提供・政策提言	○発症初期の患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」配布に向けて準備作業を行った。 <内容物（予定）> ・専門医執筆による患者・家族向けのわかりやすい医療情報冊子 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・患者・家族の体験談 ・学校、幼稚園、保育園向けの説明用パンフレット ・注射器等が入るキティちゃんポーチほか	10月～	東京都 安城市 大阪市 佐賀市 大津町ほか	4人	患者及びその家族等 60000人	4890

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供 ・政策提言	○20歳以上の患者支援策の実現に向けて①国の「難病対策に関する意見交換会」等で20歳以上の1型糖尿病患者に対する支援策実現について、早急に対応するよう国への要請を行った。 ②自由民主党政務調査会厚生労働部会医療委員会難病などに関するプロジェクトチームによるヒアリングで「1型糖尿病の難病指定・障害認定等による20歳以上の患者への公的支援の実現」に向けて意見を述べた。 ③難病法（難病の患者に対する医療等に関する法律）及び児童福祉法改正の国会審議に際してロビー活動を行い、1型糖尿病の20歳以上の患者支援実現に向けて国会で質疑に至り、国の課題として認識された。	通年	東京都 安城市 佐賀市ほか	4人	患者及びその家族等 60000人	
	○特別児童扶養手当の適正な認定事務に向けて国への周知要請及び該当する地方自治体に対して改善の申し入れを行った。	通年	安城市ほか	1人	20000人	
	○インスリンポンプを使用する1型糖尿病患者の負担軽減について、国への要請を行い、平成26年4月の診療報酬改定で2カ月に1回の診療が可能となった。	8月 ～12月	東京都 安城市ほか	2人	60000人	
	○高齢者介護施設での職員によるインスリン注射が可能となる法整備に向けて、ロビー活動を行った。	通年	東京都 安城市ほか	2人	60000人	
	○「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」の施行令案について、「低血糖症」が無条件でその処罰の対象にならないよう国に対し意見を述べ原案の一部修正に至った	2月～3月	東京都 安城市ほか	2人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○デンマーク首相来日記念「Changing Diabetes フォーラム」のパネルディスカッション「糖尿病の現状と課題ー医療政策専門家糖尿病専門医、企業、患者の立場から」に井上龍夫理事長がパネリストとして参加した。その際に、1型糖尿病の絵本をヘレ・トーニング=シュミットデンマーク王国首相に贈呈した。	3月4日	東京都	3人	患者及びその家族等 60000人	
	○患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市ほか	2人	60000人	
	○東京学芸大学と協働で作成した学校、幼稚園等での説明用パンフレット「教えて、りんりん！ RinRin 1型糖尿病ってどんな病気？」を5000部増刷し、患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市ほか	3人	60000人	
	○株式会社サンリオ様の協力を得て、ロシュ・ダイアグノスティックス様から提供いただいた血糖測定器等を入れる「キティちゃんポーチ」等を、患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市ほか	2人	60000人	
	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジュエ-Cグルコース」を患者・家族等へ配布した。	通年	岡山市 佐賀市ほか	3人	60000人	
	○「1型糖尿病 [IDDM] レポート2013」(IDDM白書)を200部作成し、ホームページ上でも公開した。	10月～	東京都 安城市 佐賀市 大津町	5人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	<p>○カーボカウントとインスリンポンプのセミナーを引き続き開催した。参加者の約半数が医療関係者であった。</p> <p>○その他、日本糖尿病学会年次学術集会、日本先進糖尿病治療研究会、日本脾・膵島移植研究会、米国研究製薬工業協会（PhRMA）インフォメーション・セッション難病・慢性疾患全国フォーラム2013等で情報収集や情報発信を行った。</p>	9月21日 10月27日 11月10日 12月22日 1月25日 2月2日 3月22日 通年	札幌市 仙台市 名古屋市 東京都 山口市 熊本市 東京都 東京都 名古屋市 熊本市ほか	9人 10人 15人 12人 8人 18人 11人 4人	患者及びその家族等 42人 79人 127人 117人 44人 65人 93人 60000人	
調査研究	<p>○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル」Part1からPart5（別冊を含む6種類）を配布した。 10月からはAmazon.co.jp等でも購入できるようにした結果、過去最高の配布実績となった。</p> <p>○「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアルPart2（生活編）」の改訂版を3000部発行した。</p> <p>○「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル」を紹介したチラシを5000部増刷した。</p>	通年 11月 11月	佐賀市ほか 安城市 佐賀市ほか 佐賀市	3人 5人 1人	患者及びその家族等 60000人 60000人 60000人	3983

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○1型糖尿病「治らない」から「治る」－“不可能を可能にする”－を応援する100人委員の助言を受けながら、2025年の1型糖尿病の根治に向けたファンドレイジング(資金調達)活動の具体的展開の検討を行った。	平成25年5月～平成26年5月	東京都安城市佐賀市ほか	5人	患者及びその家族等 60000人	
	○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。	通年	佐賀市	1人	60000人	
	○以下の調査・研究等に協力を行った。 ・膵島細胞移植のアンケート調査(国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト) ・患者向け医薬ガイド改定案のヒアリング(厚生労働科学リスクコミュニケーション研究班) ・平成25年度難病患者サポート事業「日本の患者会WEB版」の作成(一般社団法人日本難病・疾病団体協議会、特定非営利活動法人難病支援ネット北海道) ・患者団体の活動に関する調査(日本製薬工業協会) ・平成25年度特定非営利活動法人に関する実態調査(内閣府) ・認定特定非営利活動法人の活動状況に関するアンケート調査(内閣府)	通年	東京都安城市佐賀市ほか	3人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
関係団体との連携	JDRF(米国の1型糖尿病研究財団)日本糖尿病学会関係者、日本難病・疾病団体協議会(JPA)等と1型糖尿病患者の将来のために情報交換等を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市ほか	3人	患者及びその家族等 60000人	186
普及啓発	<p>○1型糖尿病の絵本(3巻セット)を5000セット作成し、10月から販売を開始した。なお、販売収益は1型糖尿病研究基金に充てることとした。</p> <p>この絵本については、新聞(読売新聞、西日本新聞、佐賀新聞、毎日新聞)並びに村上龍氏(作家・映画監督)が編集長を務めるメールマガジンJMM(約10万人に配信)に掲載された。また、パラオ共和国のトーマス・エサン・レメンゲサウ・ジュニア大統領とデンマーク王国のヘレ・トーニング=シュミット首相には贈呈した。</p> <p>○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」を3000部作成し、じゃこめてい出版から販売されることになった。</p> <p>○阪神タイガース岩田稔投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神対横浜DeNA戦)に協力し、マスコミ2社に取り上げられた。</p> <p>○阪神タイガースの岩田稔投手から1勝10万円(計20万円)が1型糖尿病研究基金に寄付され、スポーツ新聞5社に取り上げられた。</p> <p>○KBS京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」の「今後の災害支援に役立てて」というテーマで井上龍夫理事長が出演した。</p>	<p>通年</p> <p>平成25年 5月～</p> <p>7月26日 7月28日</p> <p>11月23日</p> <p>平成25年 6月28日</p>	<p>安城市 大川市 佐賀市ほか</p> <p>東京都 安城市 佐賀市 大津町ほか</p> <p>西宮市 西宮市</p> <p>西宮市</p> <p>安城市</p>	<p>10人</p> <p>4人</p> <p>3人 3人</p> <p>2人</p> <p>1人</p>	<p>患者及びその家族等 60000人</p> <p>60000人</p> <p>60000人</p> <p>60000人</p>	<p>4031</p>

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○第12回佐賀糖尿病連携懇話会(主催:佐賀県糖尿病療養指導士会、佐賀病院薬剤師会、佐賀県薬剤師会等)で井上龍夫理事長が『1型糖尿病の患者・家族の支援組織のあり方と目指すところ-「救う」、「つなぐ」そして「根治」の実現に向けて』と題して講演。	平成25年 6月7日	佐賀市	1人	患者及びその家族等 60000人	
	○NPO法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパンがライブ(ニコニコ動画)でネット放送する「患者さんと語ろうシリーズ『1型糖尿病』」に井上龍夫理事長が出演した。	1月18日	神戸市	1人	60000人	
	○FNSドキュメンタリー大賞(TKUテレビ熊本制作)番組(陶山優子ちゃんとそのご家族を追った54分のドキュメンタリー番組)「治らない」から「治る」へ~1型糖尿病 2025~で、日本IDDMネットワークの活動も紹介された。 全国のフジテレビ系列放送局及び韓国でも放映された。	平成25年 5月~ 平成26年 5月	和水町ほか	4人	60000人	
	○全国各地の小・中学校、高等学校、公民館、イベント等で、大村詠一専務理事が1型糖尿病に関する講演を24回行った。	通年	九州各地	1人	60000人	
	○サノフィ株式会社主催の「第2回Type 1DM summit」にて、大村詠一専務理事が、患者の体験談を小児科医、内科医の前で講演した。	平成26年 5月11日	東京都	1人	60000人	
	○日本糖尿病協会が取り組むサマーキャンプ等に大村詠一専務理事が参加し、患者や家族医療従事者等に対し体験談などの講演を6回行った。	7月~8月	京都市ほか	1人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○アフターファイブ講演会「鬼丸昌也氏/こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した。」(主催:佐賀県庁アフターファイブ講演会、公益財団法人佐賀未来創造基金、認定特定非営利活動法人地球市民の会)の場で、大村詠一専務理事が、1型糖尿病と日本IDDMネットワークの活動について講演を行った。	11月19日	佐賀市	2人	患者及びその家族等 60000人	
	○毎日新聞に、1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart5(患者と家族の体験編)及び1型糖尿病について掲載された。	平成25年4月9日	佐賀市	1人	60000人	
	○日本経済新聞、琉球新報、河北新報、山口新聞、東京新聞、愛媛新聞、佐賀新聞に1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart3(災害対応編)別冊「1型糖尿病[IDDM]関係者の東日本大震災」及び1型糖尿病について掲載された。	平成25年6月~7月	安城市 佐賀市	2人	60000人	
	○週刊交通界21で、1型糖尿病研究基金を応援する飲料自販機について『「自販機置くだけ」の社会貢献・売上の一部を難病の研究基金へ』と題して掲載された。	平成25年5月27日	東大阪市	1人	60000人	
	○毎日新聞に、第5回1型糖尿病研究基金助成テーマ決定について掲載された。	8月1日	全国各地	1人	60000人	
	○リビング熊本に、1型糖尿病研究基金を支援するチャリティーウォークについて掲載された。	10月23日	熊本市ほか	1人	60000人	
	○佐賀新聞に「希望のバッグ」配布事業と1型糖尿病について掲載された。	11月19日	佐賀市	1人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
療育相談	<p>○電子メール(124件)、面談(3件)相談電話(239件)、ホームページ(488, 298件)等を通して、様々な相談等に対応した。</p> <p>○1型糖尿病を持つ女性・家族と看護職者のためのセミナー「共に語ろう妊娠・出産」を糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関わる支援ネットワークシステムの構築研究班(主任研究者:田中佳代久留米大学医学部看護学科母性看護学准教授)と共催で開催した。</p>	<p>通年</p> <p>12月1日 2月15日</p>	<p>東京都 南越前町 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和水町ほか</p> <p>青森市 長崎市</p>	<p>8人</p> <p>3人 3人</p>	<p>患者及びその家族等 60000人</p> <p>25人 27人</p>	1185
会報発行	<p>会員の情報交換等のため、会報を2回、各4000部発行した。</p>	<p>8月6日 12月28日</p>	佐賀市ほか	6人	<p>患者及びその家族等 60000人</p>	620
東日本大震災対策	<p>○東日本大震災の経験を風化させることなく、その教訓を伝える「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart3(災害対応編)別冊・1型糖尿病[IDDM]関係者の東日本大震災」を3000部発行した。</p> <p>○東日本大震災で被災した患者、看護師、医薬品卸売会社の方々を招き「東日本大震災の体験から1型糖尿病患者が学ぶこと」を開催した。</p>	<p>平成25年 5月</p> <p>平成25年 5月26日</p>	<p>安城市 伊勢市 西宮市 佐賀市</p> <p>名古屋市</p>	<p>4人</p> <p>13人</p>	<p>患者及びその家族等 60000人</p> <p>95人</p>	965

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) 研究費助成	<p>○1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第5回研究費助成の公募を行い、10件の応募の中から下記の3件の助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異種動物個体内での膵臓作出と得られた膵島による糖尿病治療 研究代表者：山口智之東京大学医科学研究所助教 助成額：100万円 ・膵島再生を促す新たな移植部位の検討－脾臓が誘導する膵島再生機構－ 研究代表者：小玉正太福岡大学医学部再生・移植准教授 助成額：100万円 ・ヒト膵島分離後の残余膵組織からのインスリン産生細胞作成 研究代表者：霜田雅之国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究長 助成額：100万円 	7月12日	東京都 南越前町 安城市 佐賀市 大津町ほか	11人	患者及びその家族等 60000人	3000
	<p>○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第6回研究費助成の公募を行い、14件の応募の中から下記の3件の助成を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集期間：1月20日～4月14日 ・助成総額：500万円(3件助成) <p>※今回から①研究助成対象分野を従来の「根治」のみならず、現在のインスリン補充療法を発展させる「治療」並びに新たな発症を防ぐ「予防」にまで拡大②助成期間を最長3年、助成額の上限を300万円まで拡大した。</p> <p>※助成金の交付は平成26年度に実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトiPS細胞から機能的な膵島の創製とそれをういた治療法の開発 研究代表者：糸昭苑熊本大学発生医学研究所教授 助成額：300万円 	1月～6月	東京都 安城市 佐賀市 大津町ほか	12人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) 研究費助成	<ul style="list-style-type: none"> ・iPS腸管(iGut)を用いた膵臓(iPanc)の臓器分化誘導法の開発 研究代表者:山田高嗣奈良県立医科大学 消化器・総合外科講師 助成額:100万円 ・糖尿病治療のための人工膵臓を目指した薬物放出システムの開発 研究代表者:三林浩二東京医科歯科大学 生体材料工学研究所教授 助成額:100万円 					
1型糖尿病研究基金(特別会計) シンポジウム	<p>○『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』を目指して、「根治に向けた最先端研究者とともに想いを語り合う日」と題して、シンポジウムを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本IDDMネットワークの未来に向けての取り組み」 井上龍夫日本IDDMネットワーク理事長 ・メッセージ 山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長 ・講演「膵島移植からバイオ人工膵島へー根治をめざしてー」 松本慎一国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究アドバイザー 【第5回1型糖尿病研究基金助成対象研究の紹介】 ・テーマ①「私の1型糖尿病根治計画ー異種動物を利用した臓器再生(ヒト膵臓の再生に向けて)ー」 山口智之東京大学医科学研究所幹細胞治療分野特任准教授 ・テーマ②「私の1型糖尿病根治計画ー1回の膵島移植で誘導される確実なインスリン離脱法ー」 小玉正太福岡大学医学部再生・移植医学講座准教授 	平成26年 5月31日	東京都 (FORUM8)	94人	患者及びその家族等 273人	2844

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ③「私の1型糖尿病根治計画-膵島以外の膵臓細胞からのインスリン産生細胞作成-」 霜田雅之国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究長 【サイエンスカフェ等の分科会】 ・テーマ①「iPS細胞による膵臓再生」 山口智之東京大学医科学研究所幹細胞治療分野特任教授ほか ・テーマ②「膵島移植」 小玉正太福岡大学医学部再生・移植医学講座准教授ほか ・テーマ③「インスリン産生細胞の作成」 霜田雅之国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究長ほか ・テーマ④「先進デバイスによるインスリン療法」 川村智行大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学講師ほか ・テーマ⑤「東日本大震災の体験から1型糖尿病患者が学ぶこと」 藤原幾磨東北大学病院小児科准教授ほか ・テーマ⑥「高齢患者の交流会」 ・テーマ⑦「夢に挑戦する患者たちとのフリートーク」 【患者によるトークセッション～病気とともに夢に挑戦する患者たち～】 山田学(元プロ総合格闘家) 吉田敬(作曲家・キーボーディスト) 中新井美波(元陸上競技選手) 大村詠一(競技エアロビク選手) 【クローージングセッション～未来に向けたチャレンジ～】 進行: 鶴尾雅隆日本ファンドレイジング協会代表理事、株式会社ファンドレックス代表取締役 <新しいプロジェクトの紹介> ・希望のバッグ ・希望の100社委員会スタート 					

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・山田圭子氏(漫画家)による1型糖尿病漫画の発行 ・大村詠一専務理事のドキュメンタリー本の発行 ・遺贈による冠基金第1号「再生医療基金」創設への感謝状贈呈 ・荒川静香氏(プロフィギュアスケーター)がマンスリーサポーターのお願いの新たな応援団に! ・日本IDDMネットワークが「かざして募金」(ソフトバンクモバイル株式会社)の対象に! ・gooddo(3秒)で研究応援を! ・ふるさとチョイス(須永珠代社長)との協働による佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」で研究応援を! ・向井亜紀氏(女優・タレント)や作者等から「小児科等に1型糖尿病の絵本を贈ろう!」プロジェクト協力をお願い ・山川浩正氏(「THE BOOM」ベーシスト)が日本IDDMネットワークの活動に協力表明 <p>○シンポジウム関連行事として、第1回1型糖尿病研究基金ファンドレイジングパーティー“1型糖尿病を「治らない」病から「治る」病にかえよう!”を開催した。</p>	平成26年 5月31日	東京都 (FORUM8)	9人	83人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	<p>○「1型糖尿病研究基金」支援チャリティウォークinくまもと2013を開催した。</p> <p>○1型糖尿病「治らない」から「治る」-“不可能を可能にする”-を応援する100人委員会の委員が110名となった。 <100人委員会の役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。 	11月16日 通年	熊本市 東京都 南越前町 安城市 佐賀市 大津町	4人 5人	患者及びその家族等 40人 60000人	6755

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。					
広 報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」－“不可能を可能にする”－を応援する希望の100社委員会を立ち上げ、委員が18社・団体となった。各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられた。	通年	安 城 市 佐 賀 市 大津町ほか	5人	60000人	
	○毎月定額(1口1000円)で当研究基金のサポートをいただくノーモア注射マンスリーサポーターを増やすために株式会社バリオーサに電話での協力要請等の業務委託を行った。	9月～	東 京 都 南越前町 安 城 市 佐 賀 市	6人	60000人	
	○毎月定額(1口1000円)で当研究基金のサポートをいただくノーモア注射マンスリーサポーターご協力をお願いパンフレットを1000部作成した。	平成26年 4月	東 京 都 南越前町 安 城 市 佐 賀 市 大津町ほか	7人	60000人	
	○佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)による研究支援をお願いするパンフレットを10000部作成した。	平成26年 5月	安 城 市 佐 賀 市 大 津 町	3人	60000人	
	○1型糖尿病の絵本、チクリのポロシャツやピンバッジ等を販売し研究費助成に充てるネットショップ「チクリのお店」を開設した。	10月～	大 川 市 佐賀市ほか	3人	60000人	
	○「治る病気」にするための研究が進み、2025年に皆さんと根治の祝杯をあげるためのバカラ社製のクリスタルグラス(ペアタンブラー、シャンパングラス)のPRチラシを10000部作成した。 ※収益の全額(1個5000円～7000円)を研究費助成に活用。	10月	大 川 市 佐 賀 市	2人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○冠基金(特定の研究目的のための寄付を頂戴し、その目的にそった研究を行う研究者・研究機関へ研究費支援を行うもの)の募集チラシを1000部作成した。	10月	安城市 佐賀市	2人	患者及びその家族等 60000人	
	○第5回研究費助成の対象となった3つの研究テーマを加えて、これまでの研究助成実績・成果を記載した冊子を1000部作成した。	11月	安城市 佐賀市	2人	60000人	
	○約700人の関係者に歳末寄付のお願いを行った。	12月	安城市 佐賀市 大津町ほか	5人	60000人	
	○「1型糖尿病」の絵本を贈ろう!プロジェクト~「1型糖尿病」を知ってもらいたい!~のチラシを5000部作成した。 ※絵本の収益は研究費助成に活用。	平成26年 5月	大川市 佐賀市	2人	60000人	
	○“1型糖尿病~2025年「治らない」から「治る」へ 私たちの挑戦への『参加』のお願い”のメニューを網羅したクリアファイルを2000部増刷した。	平成25年 5月	佐賀市	1人	60000人	
	○認定NPO法人に寄付した場合の税制優遇措置の概要をお知らせするチラシを1万部作成した。	平成25年 5月 平成26年 5月	佐賀市	1人	60000人	
	<主な寄付金収入実績> ○ホームページ、会報等で随時寄付をお願いし、冠基金「再生医療基金」100万円をはじめ高額な寄付も頂戴した。 5万円以上の寄付:16件	通年	東京都 安城市 佐賀市ほか	4人	60000人	
○阪神タイガースの岩田総投手から1勝10万円(計20万円)が当研究基金に寄付され、スポーツ新聞各紙に取り上げられ、1型糖尿病の啓発にも繋がった。	11月23日	西宮市	2人	60000人		

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	<p>○コカ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、(株)ジャパンビバレッジセントラル様及び大塚食品(株)様並びに難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。</p> <p>設置台数:43台(対前年16台増) 寄付総額:1,228,557円</p>	通年	千葉市 松戸市 東京都 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 名古屋市 京都市 綾部市 門真市 東大阪市 神戸市 広陵町 福山市 大川市 佐賀市 大分市	4人	患者及びその家族等 60000人	
	<p>○エクセルエイド少額短期保険株式会社様の「ふおーりっくぷろぐらむ」(インターネットからの保険契約1件につき一定額を寄付)から保険加入者の意向により当研究基金へ寄付された。</p> <p>寄付総額:20,600円</p>	通年	全国各地	2人	60000人	
	<p>○有限会社プレジャス・アイ様から病気や緊急連絡先などの情報を伝えるためのアクセサリMedical ID(医療識別票)、商品名MEDIC INFOの売り上げの10%に自社からの寄付を加え当研究基金へ寄付された。</p> <p>寄付総額:80,000円</p>	通年	全国各地	1人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○毎月定額(1口1000円)で当研究基金のサポートをいただくノーモア注射マンスリーサポーターから寄付を頂戴した。 サポーター数:78名で186口 寄付総額:1,188,000円	通年	全国各地	4人	患者及びその家族等 60000人	
	○(株)バリューブックス様と協働で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「～ノーモア注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:14,023冊 寄付総額:293,385円	通年	全国各地	4人	60000人	
	○家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数:5,732枚 寄附金額:288,900円	通年	全国各地	4人	60000人	
	○ジャスト・ギビング・ジャパンのWEBサイトで当研究基金への寄付を呼びかける「“ノーモア注射2025”プロジェクト」により寄付を頂戴した。 チャレンジ数:5 寄付金額:93,000円	通年	南越前町 安城市 佐賀市 大津町	5人	60000人	
	○認定NPO法人(寄付者に税制優遇措置有り)の基準(年間3000円以上の寄付者が100人以上)を満たすために「3000円募金」のお願いを主催イベントで実施した。 寄付者数:80人 寄付総額:356,000円	平成25年 5月～ 平成26年 5月	全国各地	6人	60000人	
○参加費のうち1人あたり500円を当研究基金に充てることを明示して全国各地でセミナーを開催した。 寄付金額:237,500円	9月～3月	全国各地	6人	60000人		

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○全国各地で開催したセミナーで募金活動を行った。 募金総額:78,784円	5月～3月	全国各地	6人	患者及びその家族等 60000人	
	<参考> ○オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」による第2回E-ファンドレイジング・チャレンジ2013に挑戦し、参加19団体中1位を獲得した。 目標:1,000,000円 実績:1,078,000円 148人、237件の支援有 ※当該寄付は、主催者の公益財団法人パブリックリソース財団様から手数料控除後に助成金として入金される仕組み。	11月～12月	東京都 佐賀市ほか	4人	60000人	
	○READYFOR?(レディーフォー)「絵本を贈って、不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助けたい!」に挑戦し、目標額を達成した。 目標:1,000,000円 実績:1,231,000円 81人からの支援有 ※当該支援金は、26年度に入金される。	平成26年5月29日～7月13日	東京都 安城市 久留米市 大川市 佐賀市 大津町ほか	9人	60000人	
	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク様)と協働し、佐賀県庁へ日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、iPS細胞による根治研究支援を呼びかけた。 目標:10,000,000円 実績:10,252,500円 422人からの支援有 ※当該寄付金は、26年度に入金済み。	平成26年5月30日～8月9日	東京都 安城市 佐賀市 大津町	5人	60000人	

(2) その他の事業 該当なし

平成25年度 活動計算書
平成25年4月1日から平成26年6月30日まで

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

科目	金額 (単位: 円)		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	522,000		
賛助会員受取会費	324,000		
その他の会員受取会費	1,236,000	2,082,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金 (活動一般)	8,152,734		
受取寄附金 (1型糖尿病研究基金)	8,198,083	16,350,817	
3. 受取助成金等			
受取助成金	6,577,623		
受取負担金	6,008,783	12,586,406	
4. 事業収益			
お役立ちマニュアル事業収益	3,744,730		
絵本等事業収益	1,334,943	5,079,673	
5. その他収益			
受取利息	3,991		
雑収益	24,562	28,553	
経常収益計			36,127,449
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	0		
法定福利費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
売上原価	1,894,268		
業務委託費	8,588,589		
広告宣伝費	184,539		
諸謝金	760,720		
租税公課	53,200		
印刷製本費	3,398,793		
会議費	36,373		
旅費交通費	5,251,356		
通信運搬費	1,669,345		
消耗品費	426,927		
賃借料	1,671,130		
保険料	1,800		
諸会費	286,630		
支払手数料	386,663		
支払助成金	3,040,000		
支払寄付金	153,000		
新聞・図書費	22,550		
雑費	684,553		
その他経費計	28,510,436		
事業費計		28,510,436	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	521,400		
法定福利費	80,735		
人件費計	602,135		
(2) その他経費			
売上原価	0		
業務委託費	2,671,207		
広告宣伝費	0		
諸謝金	0		
租税公課	0		
印刷製本費	48,670		
会議費	2,100		
旅費交通費	252,840		
通信運搬費	589,906		
消耗品費	201,254		
賃借料	483,977		
保険料	0		
諸会費	0		
支払手数料	278,922		
支払助成金	0		
支払寄付金	0		
新聞・図書費	2,100		
雑費	32,170		
その他経費計	4,563,146		
管理費計		5,165,281	
経常費用計			33,675,717
当期経常増減額			2,451,732
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益		0	
2. 過年度損益修正益		4,681,059	
経常外収益計			4,681,059
IV 経常外費用			
1. 固定資産除・売却損		0	
2. 過年度損益修正損		0	
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			7,132,791
法人税、住民税及び事業税			60,700
当期正味財産増減額			7,072,091
前期繰越正味財産額			15,749,682
次期繰越正味財産額			22,821,773

※本年度は「その他の事業」は実施していません。

平成25年度 計算書類の注記

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（NPO法人会計基準協議会作成）によっています。

（1）消費税の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

＜一般会計＞

（単位：円）

科目	ネットワー クの拡大 ・支援	情報収集提 供・政策提言	調査研究	関係団体と の連携	普及啓発	療育相談	会報発行	東日本 大震災 対策	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益											
1. 受取会費											2,082,000
2. 受取寄付金											8,152,734
3. 受取助成金等											8,730,300
4. 事業収益											3,744,730
5. その他収益											27,691
経常収益計											22,737,455
II 経常費用											
(1) 人件費											
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	521,400	521,400
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80,735	80,735
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	602,135	602,135
(2) その他経費											
売上原価	0	0	1,197,102	0	0	0	0	511,592	1,708,694	0	1,708,694
業務委託費	0	849,695	1,766,025	30	2,606,330	1,126,350	102,615	81,700	6,532,745	2,670,217	9,202,962
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	252,740	0	0	0	0	0	33,411	286,151	0	286,151
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	701,496	169,968	2,500	2,180	0	217,750	18,490	1,112,384	45,430	1,157,814
会議費	0	5,490	0	0	10,493	0	0	0	15,983	2,100	18,083
旅費交通費	0	1,726,138	182,660	9,370	1,356,408	0	1,600	211,450	3,487,626	250,440	3,738,066
通信運搬費	0	385,248	229,925	610	20,541	58,881	298,274	105,887	1,099,366	577,571	1,676,937
消耗品費	0	31,197	259,825	0	0	0	0	0	291,022	201,254	492,276
賃借料	0	393,190	0	0	0	0	0	0	393,190	483,977	877,167
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	103,630	10,000	173,000	0	0	0	0	286,630	0	286,630
支払手数料	420	3,597	164,051	290	2,244	0	0	840	171,442	58,435	229,877
支払助成金	40,000	0	0	0	0	0	0	0	40,000	0	40,000
支払寄付金	0	133,000	0	0	20,000	0	0	0	153,000	0	153,000
新聞・図書費	0	17,350	3,000	0	1,470	0	0	0	21,820	0	21,820
雑費	0	296,933	0	0	11,398	0	240	1,954	310,525	29,170	339,695
その他経費計	40,420	4,899,704	3,982,556	185,800	4,031,064	1,185,231	620,479	965,324	15,910,578	4,318,594	20,229,172
経常費用計	40,420	4,899,704	3,982,556	185,800	4,031,064	1,185,231	620,479	965,324	15,910,578	4,920,729	20,831,307
当期経常増減額											1,906,148

<1型糖尿病研究基金特別会計>

(単位：円)

科目	1型糖尿病 研究助成金	シンポジウム	広報	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益						
1. 受取会費						0
2. 受取寄付金						8,198,083
3. 受取助成金等						3,856,106
4. 事業収益						1,334,943
5. その他収益						862
経常収益計						13,389,994
II 経常費用						
(1) 人件費						
給料手当	0	0	0	0	0	0
法定福利費	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費						
売上原価	0	0	185,574	185,574	0	185,574
業務委託費	0	157,710	1,898,134	2,055,844	990	2,056,834
広告宣伝費	0	0	184,539	184,539	0	184,539
諸謝金	0	44,548	430,021	474,569	0	474,569
租税公課	0	0	53,200	53,200	0	53,200
印刷製本費	0	229,440	2,056,969	2,286,409	3,240	2,289,649
会議費	0	0	20,390	20,390	0	20,390
旅費交通費	0	1,137,677	626,053	1,763,730	2,400	1,766,130
通信運搬費	0	172,090	397,889	569,979	12,335	582,314
消耗品費	0	18,305	117,600	135,905	0	135,905
賃借料	0	1,066,340	211,600	1,277,940	0	1,277,940
保険料	0	0	1,800	1,800	0	1,800
諸会費	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	1,728	213,493	215,221	220,487	435,708
支払助成金	3,000,000	0	0	3,000,000	0	3,000,000
支払寄付金	0	0	0	0	0	0
新聞・図書費	0	0	730	730	2,100	2,830
雑費	0	16,646	357,382	374,028	3,000	377,028
その他経費計	3,000,000	2,844,484	6,755,374	12,599,858	244,552	12,844,410
経常費用計	3,000,000	2,844,484	6,755,374	12,599,858	244,552	12,844,410
当期経常増減額						545,584

3. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。

当法人の正味財産は22,821,773円ですが、そのうち 1,433,128円は、下記のように使途が特定されています。

したがって使途が制約されていない正味財産は21,388,645円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
社会福祉法人丸紅基金	0	2,000,000	566,872	1,433,128	期末残高は平成26年10月までに使用
合計	0	2,000,000	566,872	1,433,128	

平成25年度貸借対照表

平成26年6月30日現在
認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	16,385,864		
未収会費	12,000		
未収入金	912,480		
前払費用	27,640		
お役立ちマニュアル 絵本	6,337,395		
	1,411,450		
流動資産合計		25,086,829	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資 産 合 計			25,086,829
II 負債の部			
1 流動負債			
未 払 金	2,147,099		
未払法人税	60,700		
前 受 金	30,000		
短期借入金	0		
預 り 金	27,257		
流動負債合計		2,265,056	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負 債 合 計			2,265,056
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		15,749,682	
当期正味財産増加額		7,072,091	
正味財産合計			22,821,773
負債及び正味財産合計			25,086,829

平成25年度財産目録

平成26年6月30日現在
認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
(単位:円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	現金手許有高(一般会計)	5,519	
現金	現金手許有高(特別会計)	0	
普通預金	みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	468,418	
普通預金	みずほ銀行佐賀支店(特別会計)	6,462,349	
普通預金	みずほ銀行佐賀支店(収益事業)	1,689,899	
普通預金	百五銀行員弁支店(一般会計)	0	
普通預金	三井住友銀行佐賀支店(一般会計)	0	
郵便貯金	福岡貯金事務センター(一般会計)	296,139	
郵便貯金	福岡貯金事務センター(特別会計)	379,199	
郵便貯金	福岡貯金事務センター(収益事業)	745,659	
郵便貯金	ゆうちょ銀行総合口座通帳(一般会計)	330,237	
定額貯金(3年)	ゆうちょ銀行(一般会計)	1,000	
定期預金(1年)	みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	3,004,802	
定期貯金(1年)	ゆうちょ銀行(一般会計)	3,002,643	
	お役立ちマニュアル(収益事業)	6,337,395	
	絵本(収益事業)	1,411,450	
	未収会費(一般会計)	12,000	
	未収入金(一般会計)	365,000	
	未収入金(特別会計)	443,000	
	未収入金(収益事業)	104,480	
	前払費用(一般会計)	27,640	
	流動資産合計		25,086,829
2 固定資産			
	固定資産合計		0
	資 産 合 計		25,086,829
II 負債の部			
1 流動負債			
未 払 金	(一般会計)	1,229,772	
未 払 金	(特別会計)	116,293	
未 払 金	(収益事業)	801,034	
未払法人税	(収益事業)	60,700	
前 受 金	(一般会計)	30,000	
預 り 金	(一般会計)	27,257	
	流動負債合計		2,265,056
2 固定負債			
	固定負債合計		0
	負 債 合 計		2,265,056
	正 味 財 産		22,821,773

注) 定額貯金、定期預金及び定期貯金の合計額6,008,445円が東京事務所開設準備積立金である。

前事業年度の年間役員名簿

平成25年4月1日から平成26年6月30日まで

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	井上 龍夫	愛知県安城市	25年4月1日 ～26年6月30日	該当なし
副理事長	岩永 幸三	佐賀県佐賀市	25年4月1日 ～26年6月30日	該当なし
専務理事	大村 詠一	熊本県菊池郡大津町	25年4月1日 ～26年6月30日	該当なし
理事	後藤 昌史	宮城県仙台市	25年4月1日 ～26年6月30日	該当なし
理事	山本 康史	三重県伊勢市	25年4月1日 ～26年6月30日	該当なし
理事	松本 慎一	兵庫県神戸市	25年4月1日 ～26年6月30日	該当なし
理事	川崎 直人	福井県南条郡南越前町	25年5月26日 ～26年5月31日	該当なし
監事	古賀 敏久	福岡県久留米市	25年4月1日 ～25年5月26日	該当なし
監事	中島 幸良	佐賀県佐賀市	25年5月26日 ～26年6月30日	該当なし

前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿

平成26年6月30日現在

認定特定非営利活動法人日本IDDネットワーク

氏名	住所又は居所
けやきの会 代表者：塩沼正人	宮城県名取市
特定非営利活動法人秋田県1型糖尿病の会 代表者：宮下正弘	秋田県秋田市
信州ぶらんこの会 代表者：白石直人	長野県松本市
特定非営利活動法人補食の会 代表者：西田均	富山県砺波市
大阪くるみの会 代表者：加藤茂康	大阪府高槻市
大阪杉の子会 代表者：園部政和	大阪府大阪市
岡山小児糖尿病協会 代表者：鈴木正博	岡山県岡山市
広島「もみじの会」 代表者：寺西明子	広島県広島市
特定非営利活動法人DMユース佐賀 代表者：坂本匡	佐賀県佐賀市
DM風の会 代表者：陶山えつ子	熊本県玉名郡和水町